

念願 版画全国に挑む

盛岡・杜陵高定時制

佐藤雛歌さん(3年)

立沢知季さん(2年)

日野優海さん(2年)

盛岡・杜陵高定時制(三田正巳校長、生徒95人)美術・イラスト部の3人は、新潟県佐渡市で16、20日に開かれる第24回全国高校版画選手権大会(はんが甲子園)の本選に出場する。個性を生かした作品で予選を突破し、念願の舞台をつかみ取った。技術を高めようと日々練習に励み、上位入賞を目指す。

3年の佐藤雛歌さん、2年の立沢知季さんと日野優海さんが挑む。本選には、15府県の23校44チームが応募した予選を経て選ばれた14チームが出場。佐渡島を題材にしたテーマが当口に発表され、チームごとに島内を巡り、感じた魅力などを長辺86センチ、短辺55センチ以内の木版画で表現する。佐藤さんと日野さんは昨年も挑戦したが補欠となり、あと一步のところで本選に届かなかった。「リベンジ」を果たすべく、普段は絵画を中心に取り組む3人の持ち味も生

速さ、正確性磨き上位へ



はんが甲子園の本選に出場する(左から)日野優海さん、立沢知季さん、佐藤雛歌さん

かした作品で予選に臨んだ。制作時間のため、個人の技量。佐藤さんの「宵二見ルルハ」とともにチームワークが求められる。速く正確に彫れるよう、彫刻刀の使い分けなどを飛ぶ様子を描き、日野さんは学び、当日に向けて練習を重ねている。人間の秘めた内面を顔面で表現した「うつし世の仮面舞踏」。佐藤さんは「作品を通して会」を制作した。立沢さんの「ぼくらは虫」。佐藤さんの「作品を通して会」を制作した。立沢さんの「ぼくらは虫」は、3人の子どもが木に登って遊ぶ様子を虫に見立てた。「樹木の彫り方」を講師(父)は、「ひたむきさを変え、単調にならないようある3人。思いっきり頑張りにした」と工夫を明かす。つつ、楽しんでほしい」と見守る。(菊池美帆)

※ 岩手日報 2024年3月6日(水)付 この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。